

コールセンターからの小さなよみもの



2020年4月30日

Vol  
135

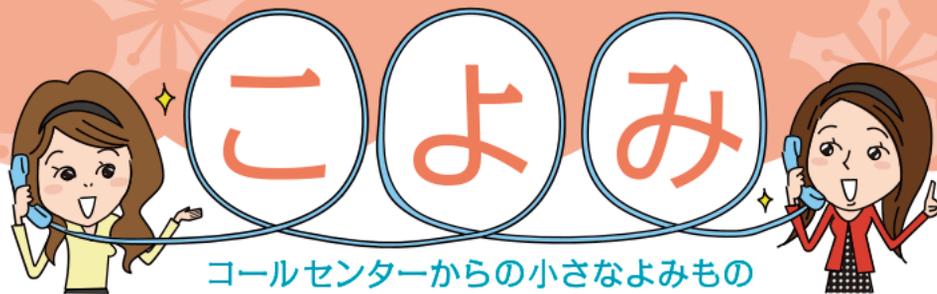
## 株式ファンドの選び方 インデックス型 vs. アクティブ型、 そして“コンセプト型”

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、世界の株式市場が大きく動揺してから2カ月が経過しました。足元は2月中旬以降の急落から少し値を戻し、上下しつつも落ち着いた動きとなっています。新型コロナウイルスが猛威を振るった欧米で経済活動が一部再開に向かいつつあるものの、依然として、事態の収束には時間がかかるとみられており、市場はしばらく不安定な動きが続くと想定されます。

こうしたなか、投資家の中には「やっぱり、投資は控えておこう」と、静観する方がいる一方、2月の急落をキッカケに「大きく下落した今がチャンス」とばかり、資産運用をスタートされる方もいるのではないのでしょうか。

そこで、今回は資産運用のエンジン役となる株式ファンドの選び方として3つのタイプをお伝えします。





## ① インデックス型

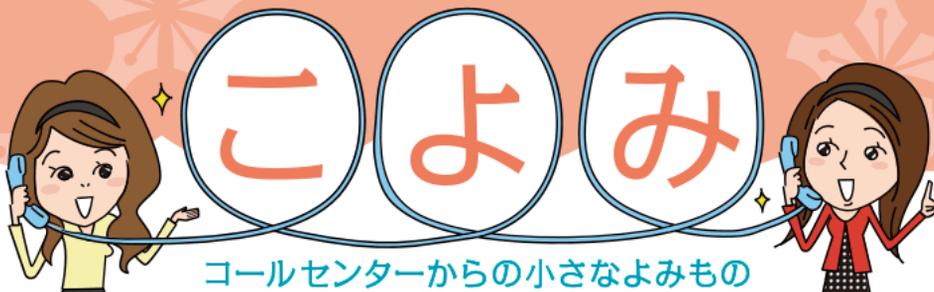
株式ファンドには大きく2種類のカテゴリーがあります。ひとつは「インデックス型」と呼ばれるカテゴリーです。例えば日経平均やTOPIX(東証株価指数)など一般に公表される株価指数と同じように動くように運用を行なうタイプのことです。日経平均が1%上がった日はファンドも1%上がり、下がった日も同じだけ下がるように作られています。

## ② アクティブ型

もうひとつは「アクティブ型」と呼ばれるカテゴリーです。アクティブ型は目標とする指数(ベンチマーク)を上回る運用成果を目指します。「アクティブ」だからといって積極的に売買を行なうという意味ではなく、なんらかの指数を意識しながら違いを出そうと工夫するタイプのことです。例えば8割程度をTOPIXなどの指数と共通にしながら、2割の範囲で良いと思う企業を指数の構成比率よりも多めに買ったり、悪いと思うものを少なくしたりするというイメージです。アクティブ型は銘柄調査費用や株式売買費用等がかかるため、インデックス型に比べるとコストが高くなる傾向があります。

## ③ コンセプト型

しばしば、「インデックス vs アクティブ」の議論が出てきたりしますが、最近、この2軸だけではなく、違う次元のカテゴリーが必要ではないかと考えています。それは「コンセプト型」とでもいうべきカテゴリーです。日興アセットは資産運用のエンジン役となる株式ファンドに「インデックス型 vs アクティブ型」の2軸ではなく、第3軸の「コンセプト型」がある—という整理をおすすめしています。



例えば、ファンド名に「グローバル・ロボ」や「グローバル・フィンテック」といった名前のファンドは世の中に何本もあり、昔ながらの分類ではアクティブ型に分類されています。しかし、それらのファンドは世界株式指数(インデックス)のことを、おそらく少しも意識なんてしていないでしょう。なぜなら、「世界のロボ企業」や「世界のフィンテック企業」というコンセプトで縛っているファンドだからです。そのファンドが銘柄を選ぶコンセプトやそのコンセプトが想定する時間軸に共感できれば、たとえ短期的な相場変動があったとしても右往左往することなく、じっくりと長期保有できるのではないかと考えています。

### コンセプト型のひとつ「メガトレンド株式」

日興アセットは世の中を変えるイノベーション(変革)のコンセプトのことを「メガトレンド(巨大な潮流)」と呼んでいます。新型コロナウイルスの感染拡大が私たちに与えた影響は非常に大きく、今後の社会のあり方や価値観さえも変えてしまうのではないかとの見方があるほどです。そうしたなか、ロボやフィンテックのようなメガトレンドを引っ張るような企業は、革新的な製品やサービスを提供することで、今後も市場のシェアを拡大することが期待されます。元々人手不足から進んでいた工場の自動化投資がコロナを機に加速する可能性があります。また、現金から感染リスクを敬遠する動きなどからキャッシュレスによる決済が今後ますます進み、それが後戻りすることはないとみています。

もちろん、短期的には市場が不安定な動きとなることも想定され、値動きも大きくなる可能性も考えられます。しかし、皆様には投信長期投資家として長期的に成長が期待できるコンセプト型の株式ファンドを資産運用の新たなエンジン役となる第3軸として押さえて頂きたいと考えています。

nikko am

コールセンター  
0120-25-1404

営業時間 平日 9:00~17:00

